

## 1 縦組み拡張機能

美しい縦組みを実現するために、`dvipdfmx` は幾つかの拡張機能を備えています。そのひとつは組方向モードと縦組み・横組みテキストのサポート、及び組方向に応じて文字の回転を行なう機能です。もうひとつは `OpenType` レイアウト機能を利用したグリフ置換機能です。後者は `TrueType` マウトレインをもつフォントを利用する場合に限り必要になります。

横方向モードで `V` や `EUCL-V` などの、名前が `V` で終る `CMap` が適用されると、文字が九十度、反時計周りに回転されます。和欧文フォント間のベースライン補正を行わないと不自然に見えるかもしれません。また、縦方向モードでは、欧文フォントに含まれる文字はすべて時計周りに九十度回転されます。出力例を載せておきましょう。まずは和文です。

与謝蕪村

俳人。画家としても知られる。享保元年、撰津  
国に生まれる。早野巴人に師事。  
代表的な句

春の海 終日のたり のたりかな

与謝蕪村

縦組み中の欧文は<sup>1</sup>

∴ We can use either the tensor  $\sigma^{\mu\nu}$ , or a vector  
 $S^{\mu}$  dual to  $\sigma^{\mu\nu}$  and dened by

$$\sigma_{\mu\nu} = \frac{1}{2}\epsilon_{\mu\nu\sigma\rho}p^{\sigma}S^{\rho},$$

where  $p^{\mu}$  is the momentum vector, or

$$S^{\mu} = \frac{1}{2}\epsilon^{\mu\nu\sigma\rho}p_{\nu}\sigma_{\sigma\rho}.$$

のようになります。

これらの機能は縦組み拡張を備えた `ASCII` `TeX`での利用を前提としています  
が、それ以外の環境で疑似的に縦組みを行なうために使うこともできます。

---

<sup>1</sup>「」の文書では実際には横方向モードで組まれています。